

2025 年度 学修成果把握のためのアンケート集計 結果報告

【実施概要】

実施方法：Mahara による実施

実施日程：1 学年次 2026 年 1 月 8 日（木）2 限後
2 学年次 2025 年 12 月 9 日（火）2 限後
3 学年次 2025 年 12 月 23 日（火）2 限後
4 学年次 2026 年 1 月 6 日（火）国試模擬試験終了時

回収率：1 学年次 93.2%（96 件/103 名）
2 学年次 85.2%（115 件/135 名）
3 学年次 69.2%（72 件/104 名）
4 学年次 73.7%（70 件/95 名）

※重複回答については最後に回答されているものを採用した。

Key Points

- 2022 年度入学生が 4 学年次生になり、今年度は全学年が Mahara で回答した。
- 学修成果を年度末までに把握できるように、12 月～1 月にアンケートを実施した。
- 大学生に求められる基礎的能力のうち、他者との関係性構築に関する能力は、1 学年次生から高い評価であったが、世界的な問題に関心を持ち考える力は、他の項目と比較して評価が低かった。多様な情報を収集する力、学んだ知識や経験を結びつけ総合的に考え活用する力、課題解決に向けたプロセスを明らかにする力、これまでの成果をふまえて展開する力は、4 年間の学修を通して、ほぼ全員が能力を獲得できたと評価した。
- ディプロマ・ポリシー（DP）達成度は、学年進行に伴い高いレベルを示し、4 学年次生ではすべての DP で、卒業時到達レベル 3 の割合が最も多かった。
- 学修状況として、実習室で行った自己学習を演習・実習で活かす項目、動画教材や AIDLE-K 上の教材を活用し理解を深める項目は肯定的な回答が多かったが、予習・復習に関する項目は 2 学年次生をピークに 4 学年次生で減少していた。予習・復習時間は 2 学年次生が最も多く、1 日平均 120 分を超えていた。一方、4 学年次生は 1 日平均 80 分程度であり、昨年度より短くなっていた。

1. アンケート結果

1) 大学生に求められる基礎的能力

大学生に求められる基礎的能力 18 項目のうち、「14. 相手の意見を丁寧に聴く力」「17. 社会のルールと人との約束を守る力」の 2 項目は、全学年で共通して、“獲得できている”“ある程度獲得できている”と回答した割合が 80%を超えていた。このような肯定的な回答は、1 学年次生 2 項目、2 学年次生 7 項目、3 学年次生 14 項目と学年が上がるごとに増えていた。4 学年次生はすべての項目で 80%を超えており、「1. 多様な情報を収集する力」「4. これまでに学んだ知識や経験を結びつけ、総合的に考え活用する力」「11. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力」「12. これまでの成果をふまえて、より効果的・発展的に展開する力」は、卒業する時点でほぼ全員が能力を獲得できたと評価した。

全学年共通して低く評価した項目「6. 世界的な出来事や問題に関心を持ち、考える力」では、“獲得できている”“ある程度獲得できている”と回答した割合が、1 学年次生 18%、2 学年次生 62%、3 学年次生 61%、4 学年次生 87%と、2 学年次および 4 学年次に上昇した。また、「3. 自分の意見を論理的に文章に書く力」についても、“獲得できている”“ある程度獲得できている”と回答した割合が 1 学年次 24%、2 学年次 71%、3 学年次 75%、4 学年次 93%と、学年進行に伴い上昇した。

2) ディプロマ・ポリシー達成度

各学年の DP 達成度（レベル 0～レベル 3）の平均値を図 1 に示す。ディプロマ・ポリシー（DP）達成度は、学年進行に伴い高いレベルを示した。1 学年次生は、昨年度レベル 2 と回答した学生が最も多か

ったが、今年度はレベル 1 と回答する割合が最も多かった。2 学年次生および 3 学年次生は、レベル 2 と回答する割合が最も多かった。4 学年次生は、卒業到達レベル 3 と回答する割合が最も多かった。各学年次生による自己評価の影響を受けることが想定されるものの、2 年次生と 3 年次生の達成度が近似する傾向が示された。

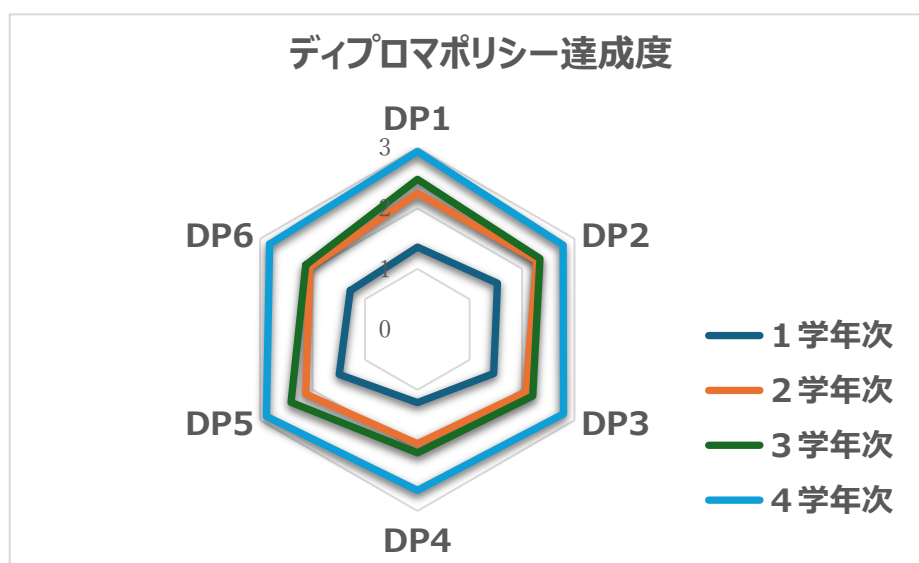


図 1 ディプロマ・ポリシー達成度

3) 学修状況

学修状況に関する質問 8 項目のうち、シラバスの活用については、「1. 授業科目ごとに、シラバスを確認している」と肯定的に回答した割合が、1 学年次生は 65%と低いものの、2～4 学年次生では 80%を超えていた。次に、「2. 授業科目ごとにシラバスに明記された準備学修(予習・復習)を確認している」、「3. 講義・演習の予習を実施している」、「4. 講義・演習の復習を実施している」の 3 項目は、全学年で共通して、“あてはまる”“ややあてはまる”と回答する割合が、他の項目より低い傾向であった。これらの項目は 2 学年次をピークに、4 学年次では“あてはまる”“ややあてはまる”と回答した割合が 40～50%に減少していた。

また、「7. 講義・演習の予習復習では、動画教材や AIDLE-K 上の教材を活用し理解を深めている」「8. 実習室で行った自己学習(実技等)を演習・実習で活かしている」は、全学年で共通して、“あてはまる”“ややあてはまる”と回答した割合が 70～80%を示し、前期課程から ICT を活用し、演習・実習に活かすことができていた。

4) 講義・演習の予習/復習に費やす時間

1 日の平均予習時間は、1 学年次生が 54.5(±31.3)分、2 学年次生が 61.5(±33.6)分、3 学年次生が 55.6(±43.3)分、4 学年次生が 41.4(±28.0)分であった。昨年度と比較して、3 学年次生の予習時間が 1 日平均 18 分増加していたが、1 学年次生は 1 日平均 16 分減少した。

1 日の平均復習時間は、1 学年次生が 54.0(±41.0)分、2 学年次生が 60.0(±34.4)分、3 学年次生が 50.9(±41.4)分、4 学年次生が 40.2(±26.0)分であった。昨年度と比較して、3 学年次生では 1 日平均 10 分増加していたが、4 学年次生は 1 日平均 12 分減少した。

2. 見出された課題

1) 大学生に求められる基礎的能力

他者との関係性構築に関する能力は、1 学年次生から高い評価であった。さらに、4 年間の学修を通して、多様な情報を収集する力、学んだ知識や経験を結びつけ総合的に考え活用する力、課題解決に向

けたプロセスを明らかにし準備する力、これまでの成果をふまえて効果的・発展的に展開する力を獲得できていることが見出された。

世界的な出来事や問題に関心をもち考える力は、例年と同様に、全学年を通して評価が低かったが、学年進行に伴い上昇を示した。前期課程に履修する「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」等の教養科目や、後期課程に履修する「実践看護英語」「国際看護学」を学ぶことにより、その能力を獲得することができたと考える。また、自分の意見を論理的に文章に書く力についても、前期課程の「国語表現法」「教養ゼミナール」、後期課程の「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」等において段階的に習得できているものの、論理的思考力や既習の知識・経験を統合して活用する力の一層の育成が課題である。

2) ディプロマ・ポリシー達成度

令和4年度カリキュラムは今年度で完成を迎えた。本調査により、DP達成度は学年進行に伴い段階的に上昇し、卒業時にはすべてのDPが卒業到達レベル3に到達することが確認された。特に、DP2（地域社会の健康増進に貢献できる能力）、DP3（保健医療福祉のチームの一員として連携・協働できる能力）が段階的に達成された背景には、令和4年度カリキュラムにおいて、地域性を重視し強化された「地域・在宅看護」に関連する科目を低学年から導入したこと、ならびに学年縦断科目として配置した「チーム医療論」、「災害看護学」が効果的に機能したと考える。一方で、2年次生と3年次生の達成度が近似する傾向が認められたことから、DP5（科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的な能力）、DP6（看護専門職として専門性を自立的に探究する姿勢）については、後期課程の学修内容の連結性を一層強化することで、さらなる看護実践能力の育成につながる可能性があると考えられる。

コンピテンシー基盤型教育においては、教育内容に即した段階的な学習目標（マイルストーン）の設計が課題である。加えて、前期課程と後期課程の段階的な臨床能力評価の仕組みを構築する必要があることから、本看護学部では未導入であるCBT（Computer Based Testing）、OSCE（Objective Structured Clinical Examination）の活用を視野に入れ、検討していく必要がある。

3) 学修状況

各学年を通じて、多くの学生が実習室における自己学習を演習や実習に活かすことができていた。ICT活用は、ペーパーレス化に対応できており、新入生への説明と先輩のピアサポートを継続する。一方で、予習・復習に費やす時間は1学年次生と4学年次生において昨年度より減少しており、予習・復習時間は2学年次生をピークに4学年次生では減少していた。また、1学年次生では、シラバスを確認していない学生が一定数いることが明らかになった。シラバスの活用について、入学後当初の教務委員会ガイダンスにおいてシラバスの説明を強化し、各科目のガイダンスで繰り返し説明する必要がある。また、4学年次が主体的学修に取り組めるように、さらなるカリキュラム開発を検討することが課題である。

今後は、コンピテンシー基盤型教育への転換に向けて、看護学教育モデル・コア・カリキュラム（改訂版）を参考に、ディプロマ・ポリシーと学修目標を明確に連結し、より評価可能となるよう各科目の学修目標を精選していく。上述のとおり、教育内容に即した段階的な学習目標（マイルストーン）の設計に取り組むことで、学生が4年間を通じて学修を体系的に積み上げ、臨床実践能力の向上につなげられるよう育成していくことが課題である。

3. 今後の対応策

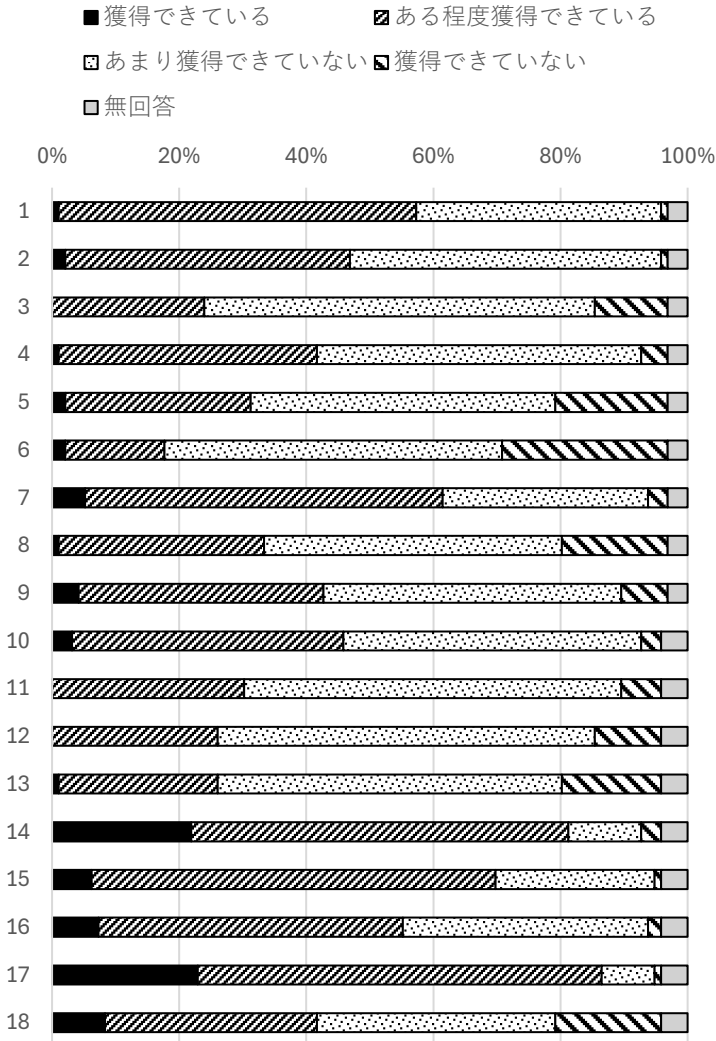
- ・学生自身が学修成果を把握し、自身の課題を見いだせるよう、Maharaの活用によるDP到達度の可視化と、アドバイザーによる支援を継続する。
- ・シラバスやDPループリックの活用について、入学間もない時期から繰り返し説明を行い、学生が主体的に予習・復習に取り組めるように支援する。
- ・令和4年度カリキュラムの評価の継続と、令和8年度カリキュラムの運用と評価を行う。
- ・看護学教育モデル・コア・カリキュラム（改訂版）を参考に、ディプロマ・ポリシーと学修目標を明確に連結し、評価可能となるよう各科目の学修目標の精選を進める。
- ・教育内容に即した段階的な学習目標（マイルストーン）の設計と、CBTおよびOSCEの活用を視野に入れた検討を行う。

2025年度 学修成果把握のためのアンケート集計結果(1学年次生) n=96

●大学生に求められる基礎的能力

項目		獲得でき ている	ある程 度獲得 できている	あまり獲 得できて いない	獲得でき ていない	無回答
1. 多様な情報を収集する力	人数	1	54	37	1	3
	%	1.0	56.3	38.5	1.0	3.1
2. 文章の要点を的確に読み取る力	人数	2	43	47	1	3
	%	2.1	44.8	49.0	1.0	3.1
3. 自分の意見を論理的に文章に書く力	人数	0	23	59	11	3
	%	0.0	24.0	61.5	11.5	3.1
4. これまでに学んだ知識や経験を結びつけ、総合的に考え活用する力	人数	1	39	49	4	3
	%	1.0	40.6	51.0	4.2	3.1
5. 社会の出来事に関心をもち、積極的に関与する力	人数	2	28	46	17	3
	%	2.1	29.2	47.9	17.7	3.1
6. 世界的な出来事や問題に関心をもち、考える力	人数	2	15	51	25	3
	%	2.1	15.6	53.1	26.0	3.1
7. 物事に進んで取り組む力	人数	5	54	31	3	3
	%	5.2	56.3	32.3	3.1	3.1
8. 他人に働きかけ巻き込む力	人数	1	31	45	16	3
	%	1.0	32.3	46.9	16.7	3.1
9. 目的を設定し確実に行動する力	人数	4	37	45	7	3
	%	4.2	38.5	46.9	7.3	3.1
10. 現状を分析し、課題を明らかにする力	人数	3	41	45	3	4
	%	3.1	42.7	46.9	3.1	4.2
11. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	人数	0	29	57	6	4
	%	0.0	30.2	59.4	6.3	4.2
12. これまでの成果をふまえて、より効果的・発展的に展開する力	人数	0	25	57	10	4
	%	0.0	26.0	59.4	10.4	4.2
13. 自分の意見を分かりやすく伝える力	人数	1	24	52	15	4
	%	1.0	25.0	54.2	15.6	4.2
14. 相手の意見を丁寧に聴く力	人数	21	57	11	3	4
	%	21.9	59.4	11.5	3.1	4.2
15. 意見の違いや立場の違いを理解する力	人数	6	61	24	1	4
	%	6.3	63.5	25.0	1.0	4.2
16. 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	人数	7	46	37	2	4
	%	7.3	47.9	38.5	2.1	4.2
17. 社会のルールや人との約束を守る力	人数	22	61	8	1	4
	%	22.9	63.5	8.3	1.0	4.2
18. ストレスの発生源に対応する力	人数	8	32	36	16	4
	%	8.3	33.3	37.5	16.7	4.2

大学生に求められる基礎的能力



●ディプロマポリシー達成度

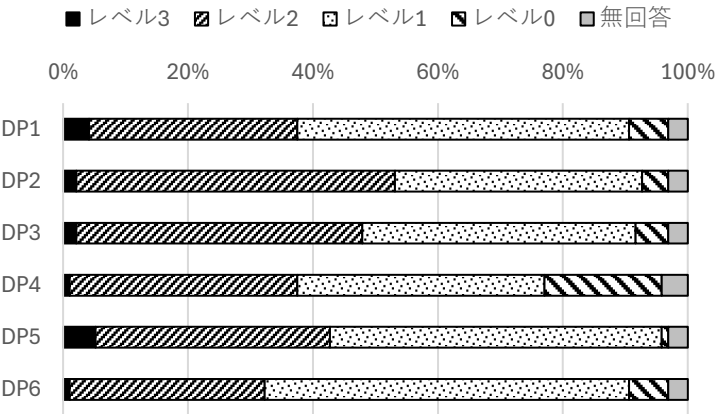
項目		レベル3	レベル2	レベル1	レベル0	無回答
DP1:人を全人的に捉え、生命の尊厳を重んじる豊かな感性と倫理観を身につけている。	人数	4	32	51	6	3
	%	4.2	33.3	53.1	6.3	3.1
DP2:人々の暮らしを支え、地域社会の健康増進に貢献できる能力を身につけている。	人数	2	49	38	4	3
	%	2.1	51.0	39.6	4.2	3.1
DP3:保健医療福祉のチームの一員として信頼関係を築き、連携・協働する能力を身につけている。	人数	2	44	42	5	3
	%	2.1	45.8	43.8	5.2	3.1
DP4:グローバル社会における看護の役割を理解し、異なる言語・文化背景に配慮した看護を実践できる能力を身につけている。	人数	1	35	38	18	4
	%	1.0	36.5	39.6	18.8	4.2
DP5:看護専門職者として多様な状況に対応し、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的な能力を身につけている。	人数	5	36	51	1	3
	%	5.2	37.5	53.1	1.0	3.1
DP6:看護専門職者として専門性を自律的に探究し、継続的に向上させていく姿勢を身につけている。	人数	1	30	56	6	3
	%	1.0	31.3	58.3	6.3	3.1

●学修状況に関する質問

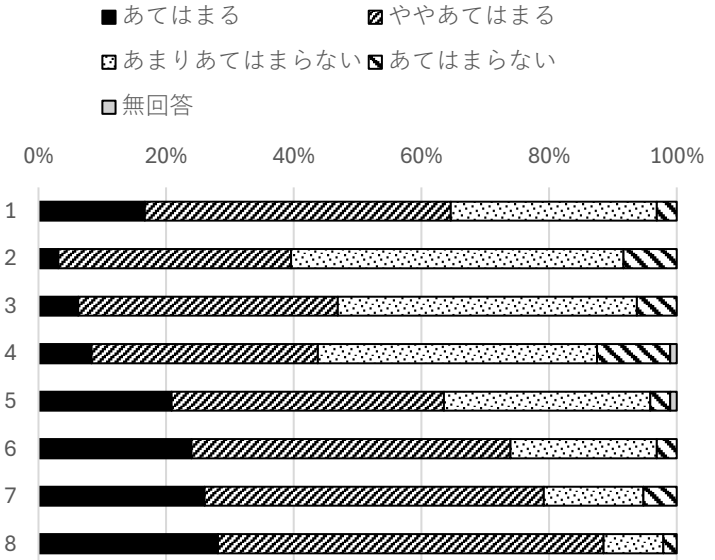
項目		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
1.授業科目ごとに、シラバスを確認している	人数	16	46	31	3	
	%	16.7	47.9	32.3	3.1	
2.授業科目ごとにシラバスに明記された準備学修(予習・復習)を確認している	人数	3	35	50	8	
	%	3.1	36.5	52.1	8.3	
3.講義・演習の予習を実施している	人数	6	39	45	6	
	%	6.3	40.6	46.9	6.3	
4.講義・演習の復習を実施している	人数	8	34	42	11	1
	%	8.3	35.4	43.8	11.5	1.0
5.講義・演習の予習復習では、教科書や参考書を活用している	人数	20	41	31	3	1
	%	20.8	42.7	32.3	3.1	1.0
6.準備学修(予習・復習)は、役に立っている	人数	23	48	22	3	
	%	24.0	50.0	22.9	3.1	
7.講義・演習の予習復習では、動画教材やAIDLE-K上の教材を活用し理解を深めている	人数	25	51	15	5	
	%	26.0	53.1	15.6	5.2	
8.実習室で行った自己学習(実技等)を演習・実習で活かしている	人数	27	58	9	2	
	%	28.1	60.4	9.4	2.1	

	平均	標準偏差	最大	最小
講義・演習の予習に費やす時間(1日の平均時間) (分)	54.5	31.3	120	0
講義・演習の復習に費やす時間(1日の平均時間) (分)	54.0	41.0	180	0

ディプロマポリシー達成度



学修状況に関する質問

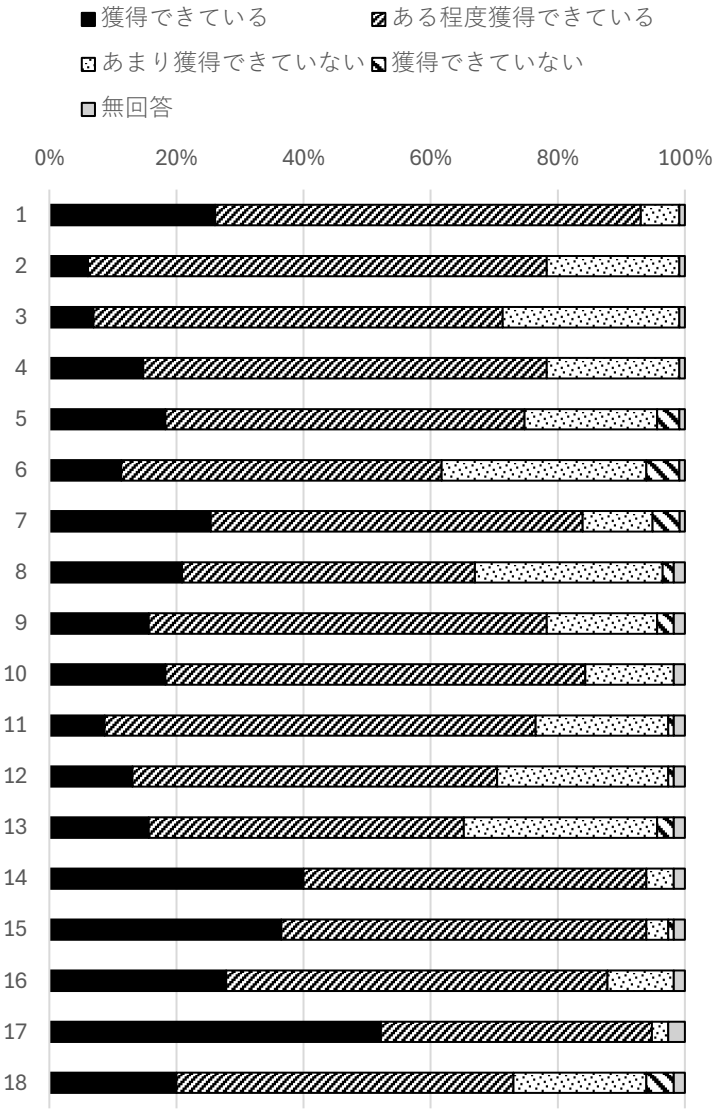


2025年度 学修成果把握のためのアンケート集計結果(2学年次生) n=115

●大学生に求められる基礎的能力

項目		獲得でき ている	ある程 度獲得 できている	あまり獲 得できて いない	獲得でき ていない	無回答
1. 多様な情報を収集する力	人数	30	77	7	0	1
	%	26.1	67.0	6.1	0.0	0.9
2. 文章の要点を的確に読み取る力	人数	7	83	24	0	1
	%	6.1	72.2	20.9	0.0	0.9
3. 自分の意見を論理的に文章に書く力	人数	8	74	32	0	1
	%	7.0	64.3	27.8	0.0	0.9
4. これまでに学んだ知識や経験を結びつけ、総合的に考え活用する力	人数	17	73	24	0	1
	%	14.8	63.5	20.9	0.0	0.9
5. 社会の出来事に関心をもち、積極的に関与する力	人数	21	65	24	4	1
	%	18.3	56.5	20.9	3.5	0.9
6. 世界的な出来事や問題に関心をもち、考える力	人数	13	58	37	6	1
	%	11.3	50.4	32.2	5.2	0.9
7. 物事に進んで取り組む力	人数	30	69	13	5	1
	%	26.1	60.0	11.3	1.7	0.9
8. 他人に働きかけ巻き込む力	人数	24	53	34	2	2
	%	20.9	46.1	29.6	1.7	1.7
9. 目的を設定し確実に行動する力	人数	18	72	20	3	2
	%	15.7	62.6	17.4	2.6	1.7
10. 現状を分析し、課題を明らかにする力	人数	21	76	16	0	2
	%	18.3	66.1	13.9	0.0	1.7
11. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	人数	10	78	24	1	2
	%	8.7	67.8	20.9	0.9	1.7
12. これまでの成果をふまえて、より効果的・発展的に展開する力	人数	15	66	31	1	2
	%	13.0	57.4	27.0	0.9	1.7
13. 自分の意見を分かりやすく伝える力	人数	18	57	35	3	2
	%	15.7	49.6	30.4	2.6	1.7
14. 相手の意見を丁寧に聴く力	人数	46	62	5	0	2
	%	40.0	53.9	4.3	0.0	1.7
15. 意見の違いや立場の違いを理解する力	人数	42	66	4	1	2
	%	36.5	57.4	3.5	0.9	1.7
16. 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	人数	32	69	12	0	2
	%	27.8	60.0	10.4	0.0	1.7
17. 社会のルールや人との約束を守る力	人数	60	49	3	0	3
	%	52.2	42.6	2.6	0.0	2.6
18. ストレスの発生源に対応する力	人数	23	61	24	5	2
	%	20.0	53.0	20.9	4.3	1.7

大学生に求められる基礎的能力



●ディプロマポリシー達成度

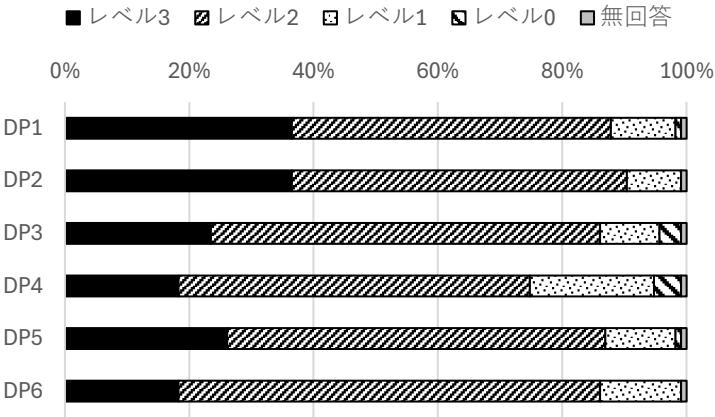
項目		レベル3	レベル2	レベル1	レベル0	無回答
DP1:人を全人的に捉え、生命の尊厳を重んじる豊かな感性と倫理観を身につけている。	人数	42	59	12	1	1
	%	36.5	51.3	10.4	0.9	0.9
DP2:人々の暮らしを支え、地域社会の健康増進に貢献できる能力を身につけている。	人数	42	62	10	0	1
	%	36.5	53.9	8.7	0.0	0.9
DP3:保健医療福祉のチームの一員として信頼関係を築き、連携・協働する能力を身につけている。	人数	27	72	11	4	1
	%	23.5	62.6	9.6	3.5	0.9
DP4:グローバル社会における看護の役割を理解し、異なる言語・文化背景に配慮した看護を実践できる能力を身につけている。	人数	21	65	23	5	1
	%	18.3	56.5	20.0	4.3	0.9
DP5:看護専門職者として多様な状況に対応し、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的な能力を身につけている。	人数	30	70	13	1	1
	%	26.1	60.9	11.3	0.9	0.9
DP6:看護専門職者として専門性を自律的に探究し、継続的に向上させていく姿勢を身につけている。	人数	21	78	15	0	1
	%	18.3	67.8	13.0	0.0	0.9

●学修状況に関する質問

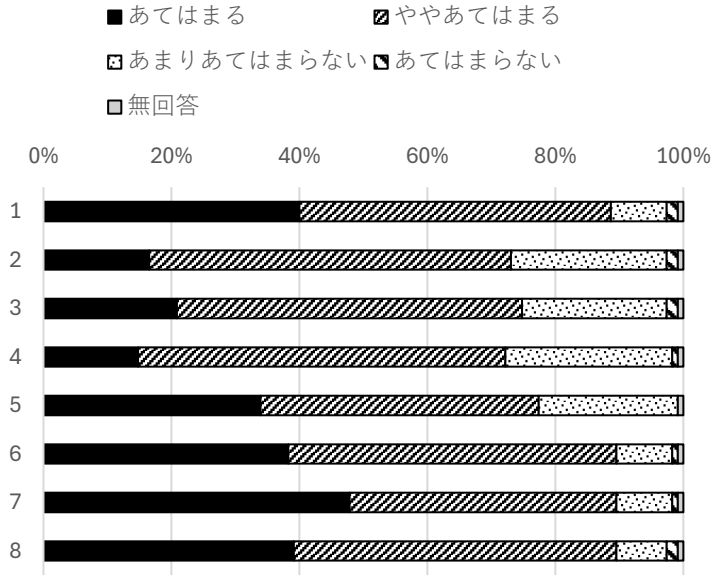
項目		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
1.授業科目ごとに、シラバスを確認している	人数	46	56	10	2	1
	%	40.0	48.7	8.7	1.7	0.9
2.授業科目ごとにシラバスに明記された準備学修(予習・復習)を確認している	人数	19	65	28	2	1
	%	16.5	56.5	24.3	1.7	0.9
3.講義・演習の予習を実施している	人数	24	62	26	2	1
	%	20.9	53.9	22.6	1.7	0.9
4.講義・演習の復習を実施している	人数	17	66	30	1	1
	%	14.8	57.4	26.1	0.9	0.9
5.講義・演習の予習復習では、教科書や参考書を活用している	人数	39	50	25	0	1
	%	33.9	43.5	21.7	0.0	0.9
6.準備学修(予習・復習)は、役に立っている	人数	44	59	10	1	1
	%	38.3	51.3	8.7	0.9	0.9
7.講義・演習の予習復習では、動画教材やAIDLE-K上の教材を活用し理解を深めている	人数	55	48	10	1	1
	%	47.8	41.7	8.7	0.9	0.9
8.実習室で行った自己学習(実技等)を演習・実習で活かしている	人数	45	58	9	2	1
	%	39.1	50.4	7.8	1.7	0.9

	平均	標準偏差	最大	最小
講義・演習の予習に費やす時間(1日の平均時間) (分)	61.5	33.6	150	0
講義・演習の復習に費やす時間(1日の平均時間) (分)	60.0	34.4	180	0

ディプロマポリシー達成度



学修状況に関する質問

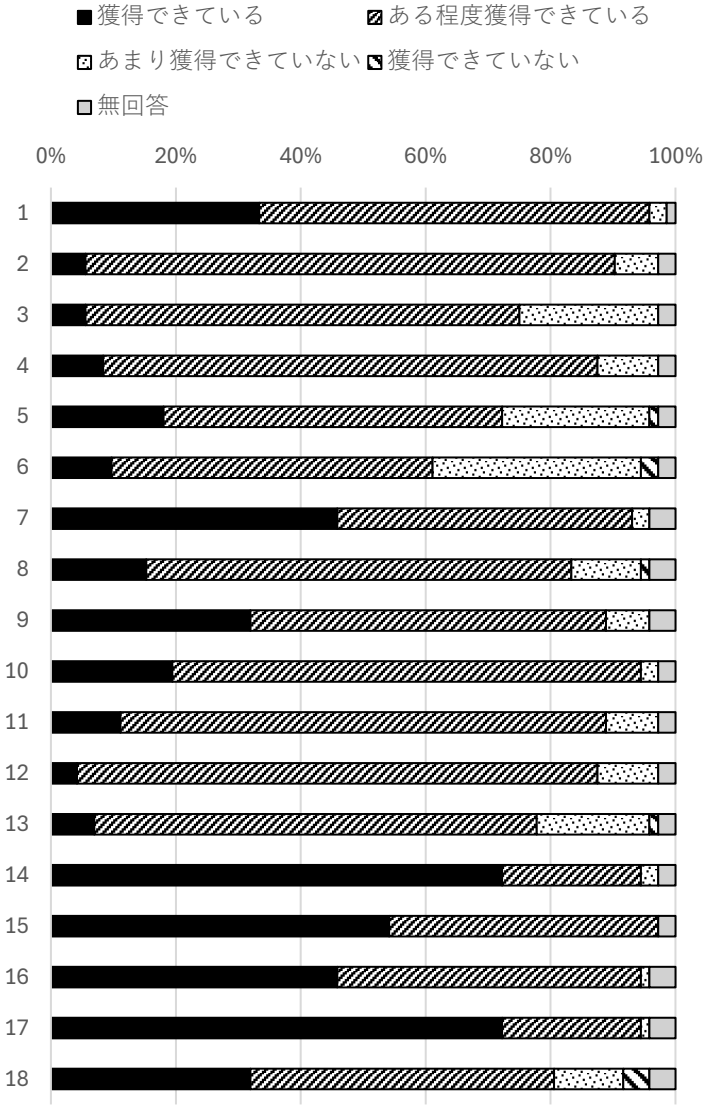


2025年度 学修成果把握のためのアンケート集計結果(3学年次生) n=72

●大学生に求められる基礎的能力

項目		獲得でき ている	ある程 度獲得 できている	あまり獲 得でき ていない	獲得でき ていない	無回答
1. 多様な情報を収集する力	人数	24	45	2	0	1
	%	33.3	62.5	2.8	0.0	1.4
2. 文章の要点を的確に読み取る力	人数	4	61	5	0	2
	%	5.6	84.7	6.9	0.0	2.8
3. 自分の意見を論理的に文章に書く力	人数	4	50	16	0	2
	%	5.6	69.4	22.2	0.0	2.8
4. これまでに学んだ知識や経験を結びつけ、総合的に考え活用する力	人数	6	57	7	0	2
	%	8.3	79.2	9.7	0.0	2.8
5. 社会の出来事に関心をもち、積極的に関与する力	人数	13	39	17	1	2
	%	18.1	54.2	23.6	1.4	2.8
6. 世界的な出来事や問題に関心をもち、考える力	人数	7	37	24	2	2
	%	9.7	51.4	33.3	2.8	2.8
7. 物事に進んで取り組む力	人数	33	34	2	0	3
	%	45.8	47.2	2.8	0.0	4.2
8. 他人に働きかけ巻き込む力	人数	11	49	8	1	3
	%	15.3	68.1	11.1	1.4	4.2
9. 目的を設定し確実に行動する力	人数	23	41	5	0	3
	%	31.9	56.9	6.9	0.0	4.2
10. 現状を分析し、課題を明らかにする力	人数	14	54	2	0	2
	%	19.4	75.0	2.8	0.0	2.8
11. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	人数	8	56	6	0	2
	%	11.1	77.8	8.3	0.0	2.8
12. これまでの成果をふまえて、より効果的・発展的に展開する力	人数	3	60	7	0	2
	%	4.2	83.3	9.7	0.0	2.8
13. 自分の意見を分かりやすく伝える力	人数	5	51	13	1	2
	%	6.9	70.8	18.1	1.4	2.8
14. 相手の意見を丁寧に聴く力	人数	52	16	2	0	2
	%	72.2	22.2	2.8	0.0	2.8
15. 意見の違いや立場の違いを理解する力	人数	39	31	0	0	2
	%	54.2	43.1	0.0	0.0	2.8
16. 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	人数	33	35	1	0	3
	%	45.8	48.6	1.4	0.0	4.2
17. 社会のルールや人との約束を守る力	人数	52	16	1	0	3
	%	72.2	22.2	1.4	0.0	4.2
18. ストレスの発生源に対応する力	人数	23	35	8	3	3
	%	31.9	48.6	11.1	4.2	4.2

大学生に求められる基礎的能力



●ディプロマポリシー達成度

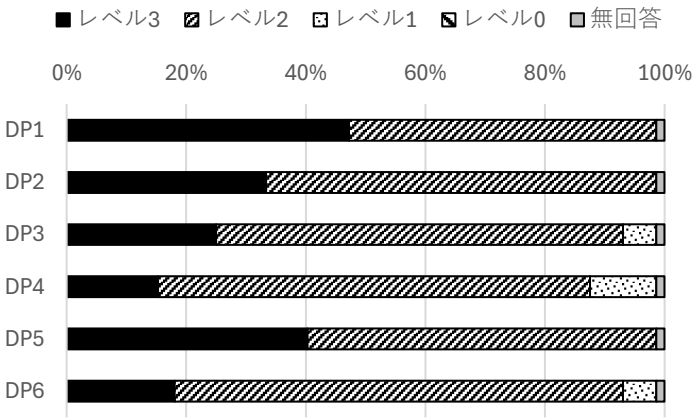
項目		レベル3	レベル2	レベル1	レベル0	無回答
DP1:人を全人的に捉え、生命の尊厳を重んじる豊かな感性と倫理観を身につけている。	人数	34	37	0	0	1
	%	47.2	51.4	0.0	0.0	1.4
DP2:人々の暮らしを支え、地域社会の健康増進に貢献できる能力を身につけている。	人数	24	47	0	0	1
	%	33.3	65.3	0.0	0.0	1.4
DP3:保健医療福祉のチームの一員として信頼関係を築き、連携・協働する能力を身につけている。	人数	18	49	4	0	1
	%	25.0	68.1	5.6	0.0	1.4
DP4:グローバル社会における看護の役割を理解し、異なる言語・文化背景に配慮した看護を実践できる能力を身につけている。	人数	11	52	8	0	1
	%	15.3	72.2	11.1	0.0	1.4
DP5:看護専門職者として多様な状況に対応し、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的な能力を身につけている。	人数	29	42	0	0	1
	%	40.3	58.3	0.0	0.0	1.4
DP6:看護専門職者として専門性を自律的に探究し、継続的に向上させていく姿勢を身につけている。	人数	13	54	4	0	1
	%	18.1	75.0	5.6	0.0	1.4

●学修状況に関する質問

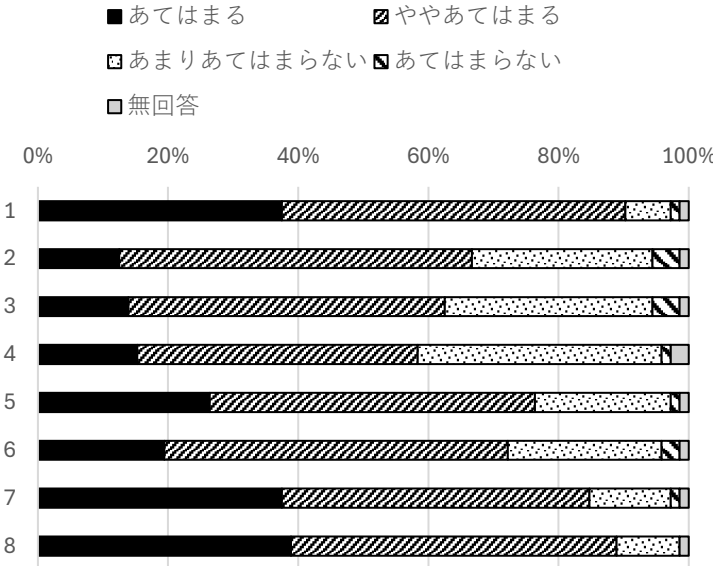
項目		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
1.授業科目ごとに、シラバスを確認している	人数	27	38	5	1	1
	%	37.5	52.8	6.9	1.4	1.4
2.授業科目ごとにシラバスに明記された準備学修(予習・復習)を確認している	人数	9	39	20	3	1
	%	12.5	54.2	27.8	4.2	1.4
3.講義・演習の予習を実施している	人数	10	35	23	3	1
	%	13.9	48.6	31.9	4.2	1.4
4.講義・演習の復習を実施している	人数	11	31	27	1	2
	%	15.3	43.1	37.5	1.4	2.8
5.講義・演習の予習復習では、教科書や参考書を活用している	人数	19	36	15	1	1
	%	26.4	50.0	20.8	1.4	1.4
6.準備学修(予習・復習)は、役に立っている	人数	14	38	17	2	1
	%	19.4	52.8	23.6	2.8	1.4
7.講義・演習の予習復習では、動画教材やAIDLE-K上の教材を活用し理解を深めている	人数	27	34	9	1	1
	%	37.5	47.2	12.5	1.4	1.4
8.実習室で行った自己学習(実技等)を演習・実習で活かしている	人数	28	36	7	0	1
	%	38.9	50.0	9.7	0.0	1.4

	平均	標準偏差	最大	最小
講義・演習の予習に費やす時間(1日の平均時間) (分)	55.6	43.3	230	0
講義・演習の復習に費やす時間(1日の平均時間) (分)	50.9	41.4	180	2

ディプロマポリシー達成度



学修状況に関する質問

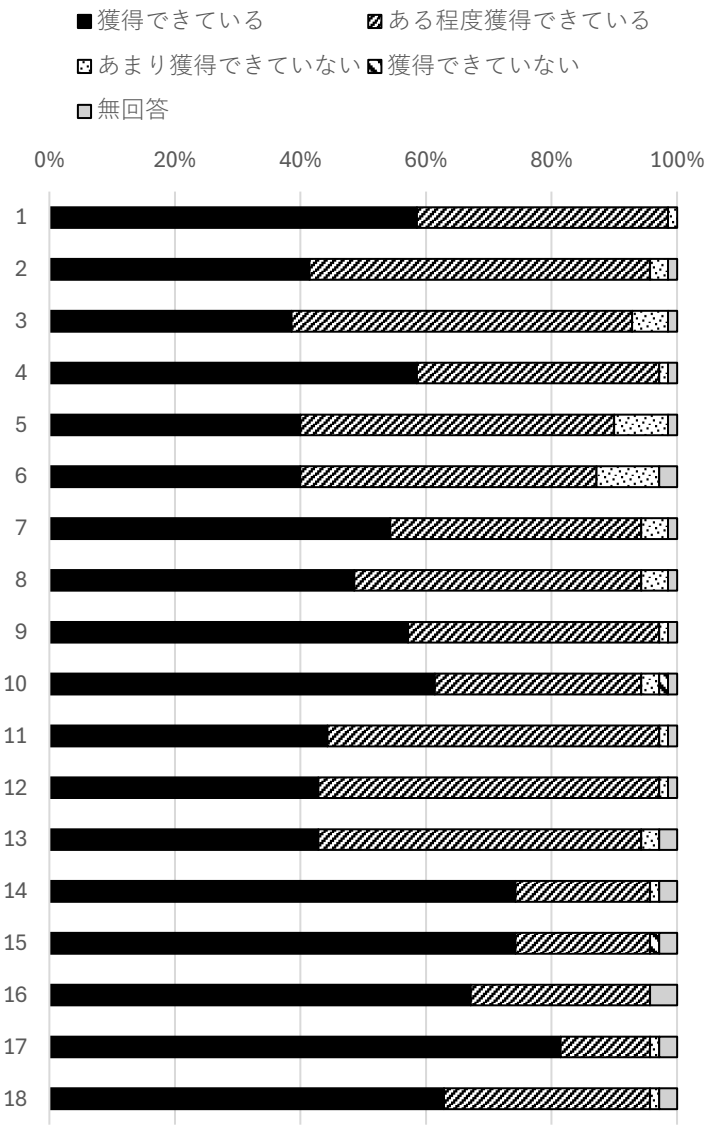


2025年度 学修成果把握のためのアンケート集計結果(4学年次生) n=70

●大学生に求められる基礎的能力

項目		獲得でき ている	ある程 度獲得 できている	あまり獲 得できて いない	獲得でき ていない	無回答
1. 多様な情報を収集する力	人数	41	28	1	0	
	%	58.6	40.0	1.4	0.0	
2. 文章の要点を的確に読み取る力	人数	29	38	2	0	1
	%	41.4	54.3	2.9	0.0	1.4
3. 自分の意見を論理的に文章に書く力	人数	27	38	4	0	1
	%	38.6	54.3	5.7	0.0	1.4
4. これまでに学んだ知識や経験を結びつけ、総合的に考え活用する力	人数	41	27	1	0	1
	%	58.6	38.6	1.4	0.0	1.4
5. 社会の出来事に関心をもち、積極的に関与する力	人数	28	35	6	0	1
	%	40.0	50.0	8.6	0.0	1.4
6. 世界的な出来事や問題に関心をもち、考える力	人数	28	33	7	0	2
	%	40.0	47.1	10.0	0.0	2.9
7. 物事に進んで取り組む力	人数	38	28	3	0	1
	%	54.3	40.0	4.3	0.0	1.4
8. 他人に働きかけ巻き込む力	人数	34	32	3	0	1
	%	48.6	45.7	4.3	0.0	1.4
9. 目的を設定し確実に行動する力	人数	40	28	1	0	1
	%	57.1	40.0	1.4	0.0	1.4
10. 現状を分析し、課題を明らかにする力	人数	43	23	2	1	1
	%	61.4	32.9	2.9	1.4	1.4
11. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	人数	31	37	1	0	1
	%	44.3	52.9	1.4	0.0	1.4
12. これまでの成果をふまえて、より効果的・発展的に展開する力	人数	30	38	1	0	1
	%	42.9	54.3	1.4	0.0	1.4
13. 自分の意見を分かりやすく伝える力	人数	30	36	2	0	2
	%	42.9	51.4	2.9	0.0	2.9
14. 相手の意見を丁寧に聴く力	人数	52	15	1	0	2
	%	74.3	21.4	1.4	0.0	2.9
15. 意見の違いや立場の違いを理解する力	人数	52	15	0	1	2
	%	74.3	21.4	0.0	1.4	2.9
16. 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	人数	47	20	0	0	3
	%	67.1	28.6	0.0	0.0	4.3
17. 社会のルールや人との約束を守る力	人数	57	10	1	0	2
	%	81.4	14.3	1.4	0.0	2.9
18. ストレスの発生源に対応する力	人数	44	23	1	0	2
	%	62.9	32.9	1.4	0.0	2.9

大学生に求められる基礎的能力



●ディプロマポリシー達成度

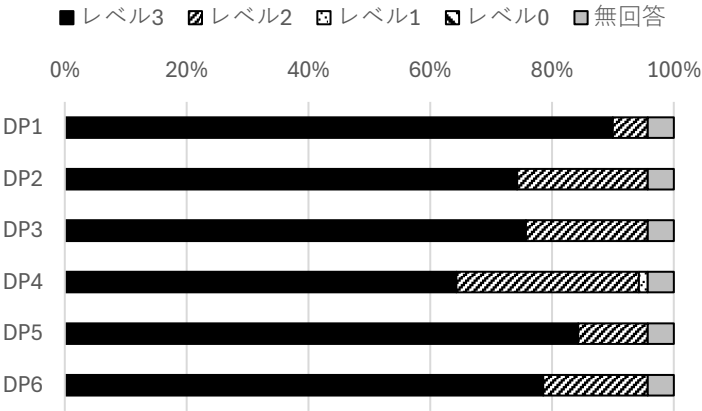
項目		レベル3	レベル2	レベル1	レベル0	無回答
DP1:人を全人的に捉え、生命の尊厳を重んじる豊かな感性と倫理観を身につけている。	人数	63	4	0	0	3
	%	90.0	5.7	0.0	0.0	4.3
DP2:人々の暮らしを支え、地域社会の健康増進に貢献できる能力を身につけている。	人数	52	15	0	0	3
	%	74.3	21.4	0.0	0.0	4.3
DP3:保健医療福祉のチームの一員として信頼関係を築き、連携・協働する能力を身につけている。	人数	53	14	0	0	3
	%	75.7	20.0	0.0	0.0	4.3
DP4:グローバル社会における看護の役割を理解し、異なる言語・文化背景に配慮した看護を実践できる能力を身につけている。	人数	45	21	1	0	3
	%	64.3	30.0	1.4	0.0	4.3
DP5:看護専門職者として多様な状況に対応し、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的な能力を身につけている。	人数	59	8	0	0	3
	%	84.3	11.4	0.0	0.0	4.3
DP6:看護専門職者として専門性を自律的に探究し、継続的に向上させていく姿勢を身につけている。	人数	55	12	0	0	3
	%	78.6	17.1	0.0	0.0	4.3

●学修状況に関する質問

項目		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
1.授業科目ごとに、シラバスを確認している	人数	33	24	12	1	
	%	47.1	34.3	17.1	1.7	
2.授業科目ごとにシラバスに明記された準備学修(予習・復習)を確認している	人数	13	26	26	5	
	%	18.6	37.1	37.1	7.1	
3.講義・演習の予習を実施している	人数	8	25	30	7	
	%	11.4	35.7	42.9	10.0	
4.講義・演習の復習を実施している	人数	7	30	29	4	
	%	10.0	42.9	41.4	5.7	
5.講義・演習の予習復習では、教科書や参考書を活用している	人数	15	34	18	3	
	%	21.4	48.6	25.7	4.3	
6.準備学修(予習・復習)は、役に立っている	人数	12	36	20	2	
	%	17.1	51.4	28.6	2.9	
7.講義・演習の予習復習では、動画教材やAIDLE-K上の教材を活用し理解を深めている	人数	14	41	14	1	
	%	20.0	58.6	20.0	1.4	
8.実習室で行った自己学習(実技等)を演習・実習で活かしている	人数	26	37	6	1	
	%	37.1	52.9	8.6	1.4	

	平均	標準偏差	最大	最小
講義・演習の予習に費やす時間(1日の平均時間) (分)	41.4	28.0	120	0
講義・演習の復習に費やす時間(1日の平均時間) (分)	40.2	26.0	120	0

ディプロマポリシー達成度



学修状況に関する質問

